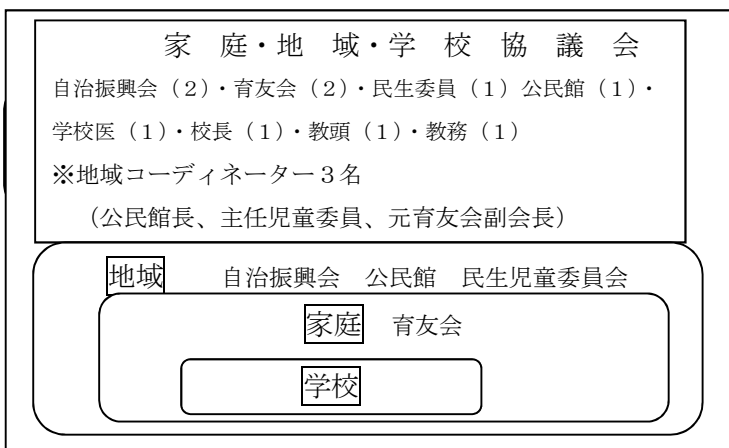


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の開催計画

年3回 (6月・10月・2月)

協議会の内容

- ・ スクールプラン、家庭教育について
- ・ 地域との交流活動について
- ・ 地域や学校での児童の様子について
- ・ 地域での児童の安全について
- ・ 保小中連携について
- ・ 学校評価について
- ・ 評価結果に基づいた次年度の取組みについて

(3) 協議会における成果と課題

スクールプランの重点項目について助言をいただき、学校運営に生かすことができた。地域での児童の様子を学校側が把握でき、様々な指導に生かすことができた。学校の課題を地域のバックアップのもと解決する体制が構築されている。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

本校では、従来から地域と密接に連携した体験活動を行ってきた。また、体育大会や学習発表会は、それぞれ地区の体育祭、地区の文化祭と合同で行っており、地域と密着している学校である。地域と進める体験学習を推進し、地域に根ざした双方向性の連携や地域に貢献できる活動を展開し、地域に愛着をもち新たな活力を生み出す人材を育成する。また、地域に開かれた学校づくりを推進し、学校を核とした地域のコミュニティづくりをより一層進める。

(2) 活動の実際

① 地域に根ざした双方向性のある活動

5年生「お米調査隊」

5年生は、自治振興会の方の指導で稲作に取り組んだ。体験だけに終わらず、米作りについて深く学習した。また、収穫したお米でおにぎりを作り、地区の文化祭で販売した。その後米作りの指導者をお呼びして、みそ汁とおにぎりを一緒にいただいて交流を深めた。



3年生「目指せ！大豆ちょうさ名人」

3年生は、大豆まき、除草、大豆の観察、収穫等の活動を体験し栽培の苦労や工夫などをインタビューし大豆に関して学習した。また、大豆を使った味噌作りを体験した。味噌は、5年生が米作りの指導者を招いたときに、みそ汁に使った。



② 地域に貢献する活動

6年生「Welcome to

Kitashinnjo」

6年生は、ふるさと北新庄に出かけて情報を収集し、その良さを外国の人に知ってもらうためにパンフレット作りに取り組んだ。外国語の時間に、話したいこと（日本語）をALTに英語にしてもらい、単語を覚えたり発音の練習をしたりした。次に、修学旅行の班別に渡す練習をする際にはALTに観光客役になってもらって練習した。修学旅行当日には、たくさんの外国人にパンフレットを配りふるさと北新庄をアピールすることができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

6年生が地域についての情報収集をしたときに、担任とともに児童引率をした。5年生が田植えをしたときにボランティアとして参加。また、事前にボランティアを募ったり、日程調整したりするなど田植えをコーディネートした。また、3年生の味噌作りや4年生のそば打ちなどでも、ボランティアや学校と地域をつなぐコーディネーターとして活動した。

(4) 特に工夫した事項

- ・ 5年生は、収穫した米やおにぎりを、自分たちでパッケージし、地区の文化祭で販売したこと。収穫したものを加工したり、調理したりしてそれをふるまい、自治振興会の方やボランティアの方に感謝したこと。
- ・ 6年生は、外国語や国語などに関連させて学習を進め、修学旅行時に奈良公園で他県の人や外国の人に配ったりして、ふるさと北新庄をアピールしたこと。
- ・ 各学年の特徴的な活動をパネルにして、常時掲示して地域の方々に活動をアピールしていること。

(5) 成果と課題

児童の活動の様子を見せることや、児童自身の言葉で地域の方々に発信し、また、地域の方々と双方向性のある交流の場を設けて、感謝の言葉を述べる機会をもつことができたのは、児童にとってたいへん有意義であった。北新庄をアピールしたことは、ふるさと北新庄に貢献する有意義な活動となった。また、収穫した米や、収穫した大豆を加工した味噌を使って、地域の方々にふるまったことも地域に貢献することにつながった。地域に愛着をもち新たな活力を生み出す人材を育成できていると考える。